

# 岡山で新聞大会

これまで個人として三十五年、AMDA（アジア医師連絡協議会）で二十二年活動してきた。世界の被災地や紛争地でのさまざまな経験の中で、メディアが何を書いてきたかより、何を書かなかったのかを感じている。今後、その問題点を検証するには、われわれが物差しにしている公共性という視点が求められる。

公共財としての全国紙には、日本と世界の人たちの連携に必要な情報を伝える役割がある。岡山市でAMDAの活動を始めたころ、東京から多くの募金が集まったのは報道のおかげだった。

カンボジア難民問題が大きく取り上げられた一九七八年から日本のメディアにボランティアという言葉が登場した。それから二十年かかってNPO法ができたが、マスコミが世論を形成してこなければ成立していなかったら

## 記念講演「人道支援におけるメディアの役割 —AMDAの経験を通じて」

国際医療ボランティアAMDA代表 菅波 茂氏

# 今ある理念、良識 絶えず検証を

う。

地方紙については、地元岡山の弱者を大切にふる福社の風土と重ねて話したい。国際貢献NGOサミットを始めた四年から、山陽新聞は地道にキャンペーンをして世論に訴え、十年たつて都道府県で初の岡山県国際貢献条例制定に至った。地方の精神風土、県民運動をまとめいった絶え間ない地方紙の努力がなければ、地方発のモデルにはならなかったと思う。

災害報道には、被災者に「あなたたちは見放されてはいないよ」というメッセージの発信を望みたい。まず何をすべきかを論ずるよりも、悲しみを共有することが大切。読者が民間の援助活動に参加



できるチャンスを与えてほしい。

これからも増えていく在日外国人も日本の新聞で情報を得ることは多い。われわれは多国籍医師団を送り込んでいる。日本に住む外国人が自国の支援に同じ国の医師も加わっていることを記事で知れば、彼らの誇りと喜びになるだろう。

援助を受ける側にもプライドがある。メディアは人道支援を先進国の特権のように伝えるが、現地の人が一番いい答えを持っている。相互扶助の精神だ。

メディアの公共性は知性にある。今ある理念や良識の中には必ず仮説がある。それを絶えず検証し、新たな状況に適應できる理念をつくり上げることをお願いしたい。

すがなみ・しげる 1946年、福山市生まれ。岡山大学院(公衆衛生学)修了。岡山市内に内科医院を開業。84年にAMDA設立、緊急救援活動で実績を積み、現在アジアを中心に29支部。2001年9月から公設国際貢献大学校(新見市)校長に。